

白岡市長賞

命を救った税

白岡市立白岡中学校 三年

永村 沙耶

夏になると「熱中症」という言葉をよく耳にしたいと思います。熱中症とは、暑い環境に体が適応できず、めまいやだるさなど様々な症状が起こる状態であり、死亡してしまうこともあります。そんな「熱中症」が自分の身の周りの人に襲い掛かったどう対応されるのでしょうか。

今年の夏に、私の姉が熱中症で倒れてしまいました。長時間の野外活動によって発症してしまったと後に本人の口から聞きました。私は驚き心配しましたが、さらに話を聞いてみると、「私の近くにいた人達がすぐに救急車を呼んでくれて助かった。」と話してくれました。それを聞いて私は「しっかり熱中症が直ってよかった」と、思うと同時に「もし救急車が呼べなかったら姉の命はどうなっていたんだろう」と考えるようになりました。そこで私は救急車についてもっと深く知ろうと思い、自分で「姉の命が助かった理由」を調べることにしました。救急車は税金によって賄われていますが、具体的には税金の財源やこういった経緯で使われているか、まだまだ知らないことが沢山ありました。

救急車の運用費用は国や地方自治体の予算から支出されており、これは住

民が納める税金を元にしています。主に住民税、消費税、所得税などの一般財源から賄われています。また、地方自治体によっては特定の税收や補助金を使っている場合もありました。それらの税金によって救急車の購入費用、維持費用、運転手や医療スタッフの給与などは支払われています。そして、効率化と費用削減のため救急車の出動要請の適正化が求められています。例えば軽症である場合や救急車が必要でない場合には、タクシーや公共交通機関の利用が推奨される場合があります。

このように救急車は税金によって運営されており、住民は直接の利用料金を負担することもなく、緊急時に必要な医療サービスを受けることができます。もし、救急車を利用するのに税ではなく個人が負担することになったのなら、助かる筈だった命は失われ、私の姉も無事ではいられなかったと思います。私達が普段の生活の中で払っている税は、ときに人の命を救い、日本全体の平和を守っているのを感じました。